



[講演]

留学生と日本人学生の 協働がもたらす学び —短期日本語プログラムの実践—

立教大学観光学部観光学科教授
韓 志昊 氏

○小林 丸山先生、ありがとうございました。

続きまして、韓先生のご講演に入ります。タイトルは、「留学生と日本人学生の協働がもたらす学び—短期日本語プログラムの実践—」です。よろしくお願いいたします。

○韓 皆さん、こんにちは。観光学部教員の韓志昊と申します。短期プログラムには最初の年から関わっておりまして、これまで2回、日本文化社会講義とフィールドトリップを担当しました。今日は、観光学部の学生がどのように成長したのかという証拠をお見せしたいと思いまして参りました。さっきの丸山先生のお話のように、学生本人が、自分が成長していることがよくわからない、先生方も、こんなに土曜日に集まってシンポジウムをしているのに、我々のこの努力は実っているのか、ちょっと不安になったりもしますが、実はしっかり実っているということを、特に短期プログラムにかかわっている先生方に、励ましになる話になればいいなと思ってご紹介をしたいと思います。【スライド②-1】

観光学部と日本語短期プログラムの場合は、私以外のほかの先生も担当してらして、多様なプログラムを提供してくださっているのですが、今日は私が担当した2つのプログラムから、学生がどんどん成長している証拠をお見せしたいと思います。私が最初に担当した2017年1月に参加した学生が、ちょうど今年3月に卒業しまして、実は登壇してもらおうと思ったのですが、観光学部の学生ですので、3カ月前に連絡したら、旅行に行く予定ということで断られまして、写真だけ紹介する承諾をもらっています。顔が出る関係で、配付資料には写真を載せることができなくて、文字だけになって申しわけないのですが、画面を

見ていただければと思います。在学生はご本人を連れてきましたので、私からよりももっと、本当の話を聞いていただければと思います。【スライド②-2】

最初に紹介しますと、初めに担当した時は参加者が5名でした。最初はゼミの学生で活動しまして、卒業した学生の事例になります。その後、今年7月にも担当することになりました。その時はゼミ生だけじゃなくて、もっと広く、また1年生の参加を試みたいと思って取り組みました。私のモルモットになった学生がここに来ています。今年は日本語教育センターの皆さんのご努力で短プロ生が67名と、すごく多い人数で大変なこともありました。【スライド②-3】

この写真が最初の2017年に来ていた4人の学生です。みんなオーストラリアから来ましたが、やはりオーストラリアに留学している中国人の学生がいて、国籍がオーストラリアの学生は1人でした。次は文化社会講義で、日本語教育センターの嶋原先生も登場されていて、2017年のシンポでもお見せしたスライドですが、このようにゼミ生が4人の留学生を迎えて、同じメンバーで川越にフィールドトリップに行くので、その前に川越について学生が紹介をし、あと、川越について何が知りたいのかを、留学生1人に、ゼミ生3人で囲んで話をしました。ほかの留学生、一緒に来た留学生とは隔離する形で、日本人の学生とだけお話をするようにしてみました。最後に留学生たちが、2時間ぐらいの時間に日本語で話したことをゼミ生がお手伝いをして発表しました。これが実際にフィールドトリップに行った時の写真です。このときも留学生同士でくっつかないように私が仕掛けをしまして、ゼミ生が横で囲んで移動するようにしました。留学生が着物の体験をして川越を歩くとても楽しい時間でした。時の鐘の前で写真を撮ったりして、とても楽しく過ごせました。

私は、この文化社会講義とフィールドトリップを担当しまして、これは、観光学部生の国際化入門編にとっても適したプログラムだと理解しました。国際化というのが、いきなり留学に行く、いきなりチューターをするというようなことだと、やはりハードルが高いのではないかと思います。国際化というのは、とても英語ができるかという話ではなくて、身近にいる、自分と背景が異なる人たちを、あまり恐れないで、その人たちが困ったときに助けるとか、手を差し伸べるとか、そういうことではないかと思います。また、自分の留学の経験なども振り返りながら、やはり早期の経験がとても大事だということを気づきました。この短プロの利点は、日本や日本語に興味がある外国人学生も、いきなり留学というのも難し

いですが、2週間、3週間のプログラムを通して、日本の大学生生活を経験できることです。立教生の場合は、英語が中心の経験よりは、日本にきている学生に対して日本語を教えるということが、負担はあまりなく、海外の経験のない学生に、「あ、国際化って英語じゃないんだ」ということを気づかせるのにとてもしいいのではないかと考えました。【スライド②-4】

これは私が勝手に作った、何の理論的な根拠もないものですが、国際交流における推定ストレスレベルの表です。やはり日本で、日本語で交流するというのは、一番ストレスが少ないのではないかと考えています。【スライド②-5】

立教大学ではこのようにいろいろなプログラムがありますので、派遣留学とか、学部間留学とか、各学部にある研修プログラムの前に、気軽に自分の余った時間、あいている時間に、日本語ボランティアをすとか、フィールドトリップの引率をすとかというようなことが、学生にとって、入門編としてとても有効ではないかと思いました。【スライド②-6】

それから、教員の希望としては、短プロに参加して、それで特外生のチューターを1学期担当したりして、あとは留学してくれたらいいなと勝手な希望がありますが、今年卒業した学生のケースがありますので、それを紹介したいと思います。【スライド②-7】

この学生です。最初の年の短期プログラムに参加をしまして、フィールドトリップの引率をしました。その後に、私の狙いどおりに、特外生のチューターをしました。スペインから来た学生と、半年だけでしたが、とても仲よくなりまして、彼女がチューターをしたおかげで、ほかのゼミ生も一緒にたくさん交流をしました。何よりも、江村さんですが、江村さんはカルメンを自分のおじいちゃんが住む、東秩父のお祭りに連れて行って参加をし、そこから東秩父の魅力を感じたことで、卒論研究のテーマにつながりました。自分の学習、学びの集大成の卒論を、東秩父の観光について執筆して、堂々と卒業しました。まさに理想的なパターンでした。

ほかに、ほかのゼミ生たちと大阪に旅行に行ったり、食事会をしたり、私は旅行にも誘われないし、食事会も呼ばれてなかったですけども、でもとてもありがたいことに、このように写真で報告をしてくれました。最後は成田空港に見送りまで行ったらいいですけども、この2人はこの後に、卒業旅行でス Pai

ンのセビリアまで彼女を訪ねて行きました。カルメンからは、将来、スペインと日本をつなぐ何かビジネスをしようと言われているらしいです。【スライド②-8】

2017年は人数が少なくて、皆さん本当に細々と取り組みましたが、その後3年間、そこに参加した学生がしっかり成長して卒業したことをここで報告できてうれしく思います。

今年の7月は、何と1年生7名にフィールドトリップの引率ボランティアとして参加してもらいました。この写真が引率した立教生で、このうち7人が1年生です。浅草から水上バスに乗って、浜離宮に行くようなプログラムですが、詳しい話を参加した1年生から直接お聞きください。【スライド②-9】

観光学部1年生の松尾さんをご紹介します。

○松尾 こんにちは。観光学部観光学科1年の松尾美嶺と申します。本日は、今年7月に短期日本語プログラムに参加した経験と、その後の大学生活について発表いたします。よろしくお願いいたします。

私は今年の7月に実施された短期日本語プログラムの日本語ボランティアとフィールドトリップの引率を経験いたしました。日本語のクラスでは、5、6人のグループと日本語での会話を行いました。初めは恥ずかしいという雰囲気があり、円満に進みませんでしたが、私が積極的にコミュニケーションをとり、よい

会話ができるようになりました。そこで私はみずから積極的にコミュニケーションを行うことの大切さを学ばせていただきました。

また、フィールドトリップの引率では、7人の留学生を浅草から浜離宮まで案内いたしました。しかしそこで私は失敗をしてしまいました。その失敗とは、私のグループだけが水上バスに乗り遅れてしまい、そこで全員、私のグループだけ電車で移動することになってしまったというものでした。そこではつたない英語で状況を説明することが難しかったり、またメンバーをどのように楽しませればよいのか、すごく悩みました。しかし、メンバーが失敗した私をたくさん励ましてくれた



観光学部 1年
松尾 美嶺

ため、楽しく観光案内をすることができました。

失敗をしたため、フィールドトリップの5日後に、韓先生と私のグループでランチとお茶会を行いました。その連絡をする際にも、コミュニケーションをとることができ、メンバーとさらに仲よくなりました。お茶会もとても楽しく、充実した時間を過ごすことができました。そしてその経験により、時間に余裕をもって行動することはもちろん、人の温かさや、失敗したときよりもその後の対応が大切であるということを学びました。

フィールドトリップ後には、短期日本語プログラムで出会った友達と連絡を取り、遊びに行きました。この写真に写っているのはセシリアというシドニー大学の中国人の学生です。フィールドトリップではほかのグループでしたが、日本語クラスやフィールドトリップ中に話す機会があり、仲よくなりました。その後に、大学の食堂で一緒にご飯を食べたり、土日には私の自宅で手巻きずしを作ったりしましたし、また一緒にお祭りを訪れたりしました。セシリアが帰国する日には、原宿で遊んだ後、お見送りをしました。何度も会っていたので、お互いにとても寂しかったです。現在もよく連絡をしており、中国語の課題を教えてもらったり、電話で話したりしています。

次に、この写真に写っているのはアナという、フィールドトリップで私のグループだったために、たくさん話し仲よくなった子です。アナとは、お茶会をした日に晩ご飯を食べに行きました。右の写真は、短期日本語プログラムの歓送会のときに撮影したものです。また日本に必ず来ると言ってくれました。

また、この写真は同じく歓送会のものですが、短期日本語プログラムを通して、留学生だけではなく、同じ大学の人とも仲よくなることができました。参加者には志の高い人が多く、最近もよく刺激を受けております。

短期日本語プログラムで海外により興味を持ち、2019年の秋学期からチューターをすることになりました。短期日本語プログラム後は海外の人との交流をさらに行いたい、またこれで終わらせたくないという思いが強く、充実した日々を送っています。

今後は、短期日本語プログラムで知り合った、中国人のセシリアの実家への訪問、また、長期留学を計画しております。セシリアの実家は焼き物が有名な景德鎮という場所にあり、すごく興味があるため、来年訪れる予定です。また、長期留学はヨーロッパに行きたいと思っており、3月に一度訪問いたします。このよ

うに積極的に海外に行くことができるようになりました。

短期日本語プログラムの参加から始まった経験を通して、海外がすごく身近になりました。大学入学前は佐賀県に住んでおり、海外の方と接することがなく、すごく緊張するのではないかというイメージが強かったのですが、今はすごく話しやすく、新しいことを知ることもできるため、たくさん自ら話したいと思うようになりました。また、私から積極的にコミュニケーションをとることの大切さや楽しさを知り、コミュニケーション力が向上いたしました。よい仲間と出会うこともでき、短期プログラムの前より、大学の授業や語学に対する勉強のモチベーションが向上しました。短期プログラムに参加でき、とてもよかったと思っています。ご清聴ありがとうございました。

○韓 ということで、学生本人から証言がありましたので、皆さん、私の話が本当であるということを感じていただけたと思います。

簡単なまとめですけれども、短プロは今まで観光学部の学生にとって、貴重な学習経験になったと思います。本日はご紹介した二人の話はとても理想的なケースではあるのですが、ほかの学生も、何らかの意味で身近に海外を感じ、外国人に対してハードルを下げる、身近に感じるというのを、私も感じておりますので、短プロがとても貴重な学習経験になったということを皆さんにお伝えしたいと思います。

そして今回、1年生に参加してもらうというトライアルを通して、やはり1年次、2年次に参加をして、その後、もっと豊かな、積極的な大学生活をするようになるのがとてもいいのではないかと考えております。本当にこの場を借りて、短期プログラムにかかわっている、とても努力されている日本語教育センターの皆さんにお礼の気持ちを伝えたいと思います。それから、学生のケースの話は、実は学生の失敗ではなくて、私のミスでしたので、そのとき本当に優しく対応してくれた皆さんに感謝したいと思います。それに甘えないで、同じミスはしないように努力しますので、今後ともよろしくお願いいたします。ありがとうございました。【スライド②-10】

【スライド②-1】

留学生と日本人学生の協働がもたらす学び ー 短期日本語プログラムの実践ー

立教大学 観光学部 韓志昊

2019年 12月 7日@池袋キャンパスA304

【スライド②-2】

報 告 内 容

- ・ 観光学部と日本語短期プログラム
- ・ 観光学部生の事例
 - ー 教員の視点
 - ー 2019年卒業生の経験
 - ー 1年生の経験

【スライド②-3】

短プロ生と観光学部生の交流活動

実施年	2017年1月	2019年7月
参加学生	韓ゼミ2年 10名	韓ゼミ 3年1名、4年1名 観光学部 3年1名、1年7名
プログラム	社会文化講義 & Field Trip	Field Trip
短プロ生	4名	67名

【スライド②-4】

短プロー観光学部生の国際化入門編に有効

- ・国際化：多様性に慣れることー早期の経験が重要
- ・日本人学生でも留学生でもより多くの人に触れ→免疫アップ
- ・短プロの利点：日本や日本語に興味がある外国人学生
英語が中心の経験より立教生に負担軽
海外経験のない学生により有効

【スライド②-5】

国際交流における推定ストレスレベル（個人的見解）

Location	人種区分	日本語	英語	英語以外外国語
日本	東洋人	小	中	大
	西洋人	小	大	大
	その他	小	大	大
外国	東洋人	中	大	大
	西洋人	中	大	大
	その他	中	大	大

【スライド②-6】

観光学部の国際プログラム（個人的見解）

Location	人種区分	日本語	英語	英語以外外国語
日本	東洋人	<u>短プロ</u> 留学生	留学生と交流	留学生と交流
	西洋人			
	その他			
外国	東洋人	個人旅行 など	派遣留学・学部間留学 早期体験・言語と文化現地研修	
	西洋人			
	その他			

【スライド②-7】

教員の視点

- 短プロの活動に参加



- 特外生のチューター



- 留学

【スライド②-8】

2019年卒業生の経験

- 2017年1月（2年生） 短プロに参加
- 2017年秋学期（3年生） 特外生のチューター
- 2018年（4年生） スペインへ旅行

【スライド②-9】

2019年度 1年生の経験

- 2019年1月の短プロに参加ー特別な経験！
- 2019年秋学期 特外生のチューター
- 在学中の留学を計画中

【スライド②-10】

まとめ

- 短プロは、観光学部の学生にとって貴重な学習経験
- 1、2年次の参加→その後の大学生活に影響